

鼎談

政治に参加する意味・意義とは何か —議員から伝えたいこと—

漆原直子 札幌市議会議員

柏野大介 恵庭市議会議員

〈司会〉山崎幹根 北海道大学公共政策大学院教授
当研究所副理事長

鼎談にあたつて

山崎 北海道地方自治研究所では、二〇二一年度からダイバーシティ研究会を立ち上げ、地方政治への参加や担い手をより多様化していくための調査・研究をしています。今回は札幌市議会議員の漆原直子さん、恵庭市議会議員の柏野大介さんにお越しいただき、なぜ地方議会の議員となつたのか、そして実際に議員となつた後の日常活動でも様々な苦労があると思われ、そうした地方議員の実態をお話いただければと思います。

また、地方政府の多様性という観点で言えば、女性と若者の参加を拡大するかも重要です。お二人は、議員インターンの大学生も受け入れておられ、他の議員よりも若者に接しているのではないでしようか。若者の政治離れが指摘される中で、どのように学生と向き合つていて、どのような考えの学生と一緒に活動しているのかについても教えて頂ければと思います。

1 私が議員になつたわけ

労働組合のためはもちろん、地域を変えたい想いから立候補

漆原 私の前職は札幌市職員で、学校給食の調理員として二二年間勤務しました。市職員となる

前は、民間企業で一〇年ほど働いていましたが、バブル崩壊と共に勤めていた飲食店が潰れてしまい、苦労しながら子育てしていました。こうした経験から労働組合の重要性は身を持って感じていましたし、給食調理の現場は労働災害などで休職する職員が多くいる状況で、労働安全面でも労働組合の役割が重要だと認識していましたので、入職と同時に札幌市役所労働組合に加入しました。

さらに、数年して合理化議論がスタートし、自分の働く職場を守つていきたいという気持ちが強くなり、組合活動に取り組むようになりました。また、時代の流れもあって労働組合にも女性役員が求められ、二〇一三年に教育委員会支部の支部長、二〇一五年には副委員長、二〇一七年からは執行委員長として札幌市役所労働組合をまとめていくことになりました。

ところが、組織内議員として応援していた七期二七年のベテランが、二〇一九年の統一地方選には不出馬表明したことから、後継者は現職役員から探すことになりました。私は議員になるつもりが毛頭なかつたので、あえて後継者選定に関わらないようにしていましたが、政治の世界に敢えて飛び込みたい職員は見つかるわけがありません。さらに、引退する組織内議員の選挙区が私の居住する白石区だつたこと、立憲民主党 자체が女性議員を増やしていくこととの方針だつたこともあり、私に「立候補しないか」と声が掛かりました。

最初、組織内議員の議席を守るにはどうしたら

いいのかという組合視点で悩んだのは言うまでもありません。けれども、自分が断つて代わりの誰かを見つけることも難しいですし、これまでの経験を自分の生まれ育った白石区に生かすことができれば、まちを変えられるかも知れないと想い、立候補を決断しました。

山崎 議員に立候補するというのはかなりの決断だったのでしょうね。

漆原 それはそればかりの決断でした。選挙まで一年を切つていましたので、すぐにでも立候補を決断しなければならなかつたのですが、話が来てから三ヶ月間悩みました。私の中で「家族に反対されたら立候補を止めよう」と思い、娘に相談したところ、逆に「いいんじゃない」と返答され、「むしろお母さんはどうしたいの?」と私の意志を問われました。

先ほど話した「これまでの経験を自分の生まれ育った白石区に生かすことができれば、まちを変えられるかもしれない」と伝えると、娘からは「そ



漆原直子(うるしはら なおこ)

1967年札幌市白石区生まれ。
略歴：1985年札幌月寒高校卒業。
在学中に日本料理の伝統に興味を持ち、女性板前として、市内ホテルや割烹・郷土料理店に勤務。
1996年札幌市役所に学校給食調理員として入職後、札幌市役所労働組合に参画。
2013年同教育委員会支部部長、15年同副執行委員長を経て、17年同執行委員長。2018年札幌市役所を退職し、19年札幌市議会選挙に立候補し初当選。現在1期目。

これが答えたね」と言われ、立候補を決意し、選挙の半年前にあたる一〇月末に退職しました。

山崎 選挙の半年前には立候補を決めていたということですね。

漆原 実は、選挙前年の四月に異動辞令が出てしまった、すぐに退職できなかつた。他の人たちよりもかなり遅いスタートでした。そして無名の新人ですから、選挙戦は厳しかつたです。

山崎 とてもストレートに語つて頂きましたが、学校給食の職場は女性の方が多いところですが、苦労や葛藤もあつたと思います。労働組合自体がある種、男性社会の象徴みたいなところもあります。そうした中で役員になつたことは時代の先鞭をつけたのではないかと想う。

山崎 もつと苦労話が出てくるのかなと思ったのですが、いい意味で出て来ず、驚きました。

漆原 確かに、執行委員長になつた直後は「女か」と言われたこともありますし、男性ばかりの職場に挨拶に行つたときには、全く目を合わせてくれなかつたということもありました。けど、執行委員長という立場で話をし、いろいろと提案してみんなでやつていくうちに話を聞いてくれるようになりましたね。一緒に取り組めば壁が無くなつていくと思っています。

山崎 労働組合時代のやりがいや成果を教えていただけますか。

漆原 調理員として給食を作る工程に必要な事務システムソフトを開発して、みんなで使えるようにしたり、人員配置も組織的にして効率よく動けるようにしたり、職場の活性化や休暇が取得しやすい環境づくりに尽力しました。また、札幌市

委員長となつた当初は身構えていました。ただ、男性に負けないと、女性なんだから頑張らなければと思わなかつた。むしろ、周囲の人たちが私のことを「女性の執行委員長として都合良く使つてもらえばよい」というふうに捉えていました。こうしたことでも思わなかつた。むしろ、周囲の人たちが私

が答えたね」と言われ、立候補を決意し、選挙の半年前にあたる一〇月末に退職しました。

山崎 選挙の半年前には立候補を決めていたと

いうことですね。

漆原 実は、選挙前年の四月に異動辞令が出てしまった、すぐに退職できなかつた。他の人たちよりもかなり遅いスタートでした。そして無名の新人ですから、選挙戦は厳しかつたです。

山崎 とてもストレートに語つて頂きましたが、学校給食の職場は女性の方が多いところですが、苦労や葛藤もあつたと思います。労働組合自体がある種、男性社会の象徴みたいなところもあります。そうした中で役員になつたことは時代の先鞭をつけたのではないかと想う。

山崎 もつと苦労話が出てくるのかなと思ったのですが、いい意味で出て来ず、驚きました。

漆原 確かに、執行委員長になつた直後は「女

か」と言われたこともありますし、男性ばかりの職場に挨拶に行つたときには、全く目を合わせてくれなかつたということもありました。けど、執行委員長という立場で話をし、いろいろと提案してみんなでやつしていくうちに話を聞いてくれるようになりましたね。一緒に取り組めば壁が無くなつていくと思っています。

山崎 労働組合時代のやりがいや成果を教えていただけますか。

漆原 調理員として給食を作る工程に必要な事務システムソフトを開発して、みんなで使えるようにしたり、人員配置も組織的にして効率よく動けるようにしたり、職場の活性化や休暇が取得しやすい環境づくりに尽力しました。また、札幌市



柏野大介(かしわの だいすけ)

1979年恵庭市生まれ。

略歴：2003年中央大学法学部卒

業後、民間企業に勤務。
07年恵庭市議会議員選挙に立候補、初当選。一期目の09年に北海道議会議員補欠選挙に立候補し落選。11年北海道議会議員選挙に再挑戦するも落選。15年恵庭市議会議員選挙で再選、現在3期目。

らいだつたと思います。

大学も政治学科を選

びました。私の中では、霞ヶ関の官僚になつて議員になるのがもっと一般的だ、と思っていましたので、大学卒業後は公務員になろうと考えていました。た

柏野 直接、先生からの影響はありませんでしたが、公務員試験の勉強をしていく中で、同じようないい経験は生きているなと感じています。そこで知り合った人たちは中央省庁や自治体職員として働いていますが、今でもお互い近況報告をしながらお付き合いしています。

だ、私が就職するころは就職氷河期と呼ばれる時代で、民間の就職先も門戸が狭い状態でしたし、私が希望していた公務員についても制度改革があり、官僚も門戸が狭まっていた時期でした。こうした時代背景もあって、就職活動 자체が難航し、不本意な気持ちの中で居酒屋に新卒就職しました。ところが、厳しい労働環境の中で働き続けることができず、ほどなくして地元の恵庭市に戻りました。

山崎 若い自分だからこそできることがあると思
い立候補

の給食をよりよくしていくため、教育委員会の中に協議の場を設ける活動もしてきました。

山崎 そういう意味では学校給食のあり方を改革することを手掛けられていたのですね。では、柏野さんにも同じくお話をいただきたいと思います。

中学生・高校生の頃から政治・議員を意識していた

柏野 私が中学生のころは新党ブームがあり、政治改革が注目を浴びていた時期で、テレビや社会科の授業でそうした話を見聞きする度に魅力を感じていました。同級生は同じ頃に開幕したサッカーJリーグを見てJリーガーに憧れています

山崎 政治を学びたいということで、中央大学政治学科に進学されたということですが、影響を受けた先生はいらっしゃいましたか。

柏野 進学前は川原彰先生の国際政治学を受講しようと思つていましたし、地方自治では辻山幸宣先生や江藤俊昭先生が教鞭を取っていました。

山崎 つまり、議員になる際に大学で学んだことは関係なかつたと。

柏野 恵庭に戻つてからは、当時の民主党が主催していた政治塾に参加しました。これがきっかけで、地元の市議会議員とご縁ができ、選挙に手伝いで関わるようになりました。その後、思うところがあつてバックパッカーとして海外を旅していましたが、二〇〇六年一二月、縁のあつた市議会議員から「二〇〇七年四月の統一地方選に出でみたらどうだ」と連絡がありました。

私はしては社会経験も少なく、立候補は早すぎると考えていました。その一方で、地方議会の中には若い世代の政治参加が全然ありません。そうした状況で物事が決まっていくことに違和感を感じていましたので、経験は全然無いが、もしかすると若い自分だからこそできる何かがあるかもしれないと思い、帰国後改めて話を聞き、立候補を決意しました。

山崎 相野さんはさらっと語つてくださいましたけど、高校生の時に「議員になりたい」と思う人はなかなかいません。何かきっかけや影響があつたのではないかと思うのですが。

柏野 影響としては、母方の祖父の兄が市議会議員で家も近所だったので私自身、幼少期に選挙事務所に行つたことがあります。両親や親族も議員に対する評価ややりがいについて話をしていたように思います。

山崎 親族に市議会議員がいて、親御さんもそうした環境を理解していたから、全く違う世界に飛び込むという感じではなかった、と自己分析されていますが、他に民間で働いたりする道もあつたのではないかと思います。

柏野 家族の理解という意味では、当時は知りませんでしたが、父も若い頃に労働組合で運動をしていて、政治活動に理解があつた。だからこそ立候補については前向きに捉えていてくれていたのだと思っています。

むしろ、私自身が無職で何も失うものがない状態でしたので、目指していた道に向かつて、自分なりにやることをやつて結果がでなかつたとしても後悔はないと考えていました。そうした意味でも立候補のハードルが低かつたというのはあるでしょうね。

山崎 ありがとうございます。お二人ともに全く違つかたちで立候補したことが理解できました。ここからは地方議員の日常的な活動を振り

返つて話をしていただきたいと思います。普段重点を置いている活動、支持者・住民との関わりについてお話をください。

2 日常的な議員活動—その実情とは 定例会・臨時会に追われ地域活動に力を注げないジレンマ

漆原 札幌市議会では新型コロナウィルス感染拡大以降、年四回の定例会以外に多数の臨時会が開催されています。例えば、二〇二〇年度は一回、二〇二一年度は二回とほぼ毎月の臨時会が開催されていることになります。定例会も含わせると、年間二〇回近く議会が開会されてきた状況です。

私が所属している会派「民主市民連合」は少数与党ということもありますし、新人議員でも「どんどん質問していきなさい」という方針のため、一般質問や常任委員会などで質問の場が多く与えられています。

しかも、議場での質問順番は同期は年功序列です。私を含め六名いる新人議員の中では最年長とも思いますが、基本的には取り組もうとしている政策や課題に精通している先輩議員に相談するというかたちが多いと思います。また、会派内でどのような質問を取り上げるかを話し合う場がありますし、政策審議会もありますので、常に先輩たちは質問内容の情報共有しています。私もよく先輩議員に相談していますね。

中は常にこのくらいの質問数となりますので、私の能力的な問題もありますが、この時期は毎日徹夜に近い状態で質問作り追われています。決算特別委員会でも一〇本を作りました。定例会

したがって、実態としては議会中心の活動になつてしまつていますが、議員活動の原点は「地域活動だ」と考えています。特に私の地元、白石区北郷地区は、地域に対する想いが強い住民が多くいる地域で、今は対面での交流は難しい状況ではありますが、電話やSNSといったツールも利用をしつつ、連絡を頂けば戸別訪問し、関係各所に繋ぐという活動やまちづくりセンターなどを訪問して直接地域住民と話をする機会を多く設けるようになります。

山崎 議会の質問という話が出ましたのでお伺いしたいのですが、質問の作成は大変苦労されているのではないかと思います。作成に際し、他の一年生議員も含めて、誰かがサポートしてくれる仕組みなどはあるのでしょうか。

漆原 我が会派の一年生議員のうち、他都市の市議経験者二名、道議経験者が一名がいます。こちらの人たちは経験があり慣れていましたが、基本的にには取り組もうとしている政策や課題に精通している先輩議員に相談するというかたちが多いと思います。また、会派内でどのような質問を取り上げるかを話し合う場がありますし、政策審議会もありますので、常に先輩たちは質問内容の情報共有しています。私もよく先輩議員に相談していますね。

さらに、労働組合として理事者や関係部署と交渉してきた経験がありましたので、どの部局でどのような仕事をしているか理解していたというこ

とは、質問を作成する際の武器と言えるかもしません。

山崎 そうなのですね。とは言え、世の中には質問する能力のない議員もありますし、一般質問をしたことがないと言う議員もいました。先ほどの話を聞いていると、眞面目にやろうと思えば思うほどものすごく大変だということがよくわかりますね。

漆原 そう思います。質問も相手に決まつたことを返答してもらいたい議員もいれば、反問したい議員もいます。私個人としては、質問したことが議事録に一語一句残りますので、それを踏まえながら質問を考えています。

山崎 私も先日、オリンピック特別委員会の議事録を読みました。札幌市議会ではウェブサイトに質問した内容がすべて公開・公表され、議員がどんなことを聞いているのかわかつてしまう。それもプレッシャーになるのでしようね。

もう一つお伺いしたいことがあります。今までは民主党系の労働組合で活躍されていたので、日々の活動には労働組合の支持者回りといった活動と先ほど話があつた地域の草の根的な活動とう二タイプの活動があると思うのですが、具体的にはどのような活動をされているのでしょうか。

組合も地域も基本は会つて話をする

漆原 まず労働組合ですが、冒頭で話したよう

に役員としてお付き合いさせていたでいた関係もあるので、春と年末には挨拶回りには行きますし、集会や勉強会があれば積極的に参加しています。その場では「何か日常で課題はありませんか」と伺うようにして、労働組合で今何が課題になつてているかを把握するようになります。

地域の方は、前任者の後援会を引き継ぎましたが、諸事情で半分くらいとなつていましたので、基本は必ず会つて自分を知つて頂く、名前を覚えていたくことを心がけています。そして、後援会名簿に掲載されている方だけではなく、紹介された万のところを訪問する活動もしています。

また、コロナ禍で開催されていませんが、町内会や自治会の新年会や夏祭りなどに出向いて、課題を聞く活動もしています。地域の人から声をかけていただきたいことで保護司の仕事を始めるなど、そこが縁となつて人脈が広がつている状況ですね。

山崎 こまめに支持者を回つて、後援会入会申込書に書いてくれる方を増やしていく草の根運動をしつかりとやられているのですね。活動割合としては、労働組合系の活動と、地域の活動はどちらが多いのでしょうか。

漆原 新型コロナウイルス感染拡大によつて労働組合の活動が制限されていることもあり、今は地域の方が多いかもしれません。なので、感染が収束していくば割合は変わることも考えられます。

山崎 住民から寄せられる相談事としてはどのようなものが多いのでしょうか。

漆原 タイムリーな話題で言えば、今冬の大雪に対する相談事は非常に多かつたですね。一月下旬から三月中旬まで電話が鳴らない日は一日もありませんでした。

山崎 それは「漆原さん、何とかしてください」という電話ですか。

漆原 白石区だからかもしませんが、住民は議員なら何とかできると思つてているのでしょうか。

とは言え、除排雪は生活に密着した課題ですから、実際に現場を見に行き、緊急性や優先的に対応すべき箇所は白石区土木センターに伝える活動はしていました。もつと言えば、除排雪や道路に穴が開いているので補修してほしいといった要望は、町内会や自治会が担つていたのですが、コロナ禍でこうした地域コミュニティ活動が停滞していましたので、地域から要望があつた時には、代わつて行政に伝える活動も増えていますね。

また、地域活動が困難となつて、高齢世帯での老老介護などの課題に関する相談は多いですね。前職のこともあり、貧困の子どもを助けたい団体からの相談やひとり親家庭など生活に困窮した人からの相談も増加傾向にあります。

山崎 相談を受け、それは地域包括支援センターに行きましょう、区役所へなどと橋渡ししてあげるということですね。

漆原 一言で現すならば、議員＝困つている人と行政のつなぎ役と言つた方がわかりやすいかもしません。行政の書類は専門用語が並び難しい



〈司会〉 山崎幹根
北海道大学公共政策大学院教授
当研究所副理事長

ものばかりですので、一般的の住民は読んでも理解できないことがあります。そうした書類を読みながら、かみ砕いてわかりやすく説明することもありますし、担当課からわかりやすい資料を貰つて届けたり、書類の書き方が分からぬといふ人のお手伝いなどもしています。

山崎 多種多様な相談をお受けし、橋渡しすることに日常的な議員活動のエネルギーを注いでいることがわかりました。そうした方々は、立憲民主党選出の漆原さんというよりも、地域選出の市議会議員としての漆原さんだから頼つてているので

しようね。

組織に属していない住民との対話を重視

柏野 議会活動で言えば、一般質問は毎回必ず行っていますし、最近は議案審議に力を入れています。恵庭市議会では、これまで補正予算については質疑もなく議決されていくことが多かったの

一方で、私自身は後援会活動が弱いと感じています。形式的にはあるのですが、組織的な活動ができる体制にはなっていないので、議会報告会を始めとする対話の場は大事にしているところであります。定例会毎に市内の各所で複数回開催するのですが、そこに出席して頂いた方から挙げられた意見を見しつかり受けとめながら活動しています。

山崎 幹根

ですが、賛成するにしても、しつかり課題などを指摘して、次は改善してもらえることを意識して質疑をしています。

あとは、議案について修正案や改正案を提出していきたいと考えていて、今回の任期中では議会事務局の力を借りながら、二件の修正案を作成・提出しました。ただ、少数会派ということもあり、私たちの提案に他会派の賛同を得られることはないのですが、市民の賛同を得られるよう力を注いでいるところです。

支援者・市民との関わりでいうと、今は政党的推薦などはいただいていない立場なので、いかに組織に属していない市民とつながるかを意識して

います。札幌市議と比べると配布枚数は少ないのですが、定例会が終わる度にチラシを作つて、恵庭市内の駅で配布しています。また、チラシの全戸配布をしている恵庭市議は少ないので、年に四回電話番号やSNSなどの連絡先を載せたものを配布して、私に連絡を取りたいと思った方はいつも連絡を取れるようになっています。

山崎 幹根

一人会派だった時期があり、オールラウンドでやらなければならなかつたこともあります。今でもオールラウンド的になりがちです。その中でも持続可能な行政運営をしていくためには財政がすごく重要だと感じていますし、この部分は他の議員もなかなか手を付けない領域なので、特に力をいれてやっています。

また、条例制定など政策法務的な領域にも関心があります。前回の議会で提出した修正案は公共施設の運営に関し、住民が参画する運営協議会の設置を条例で義務付けるものでした。他の会派の方にも事前に説明しましたが、現行では運用として行われていることから、条文に記載することの意味がご理解いただけませんでした。

山崎 柏野さんのような財政や条例など精査し、修正案を提案している活動は、地方議会で一番重要な仕事の一つである「行政のチェック機能を果たす」ということになるのですが、実際に支

したが、行政の提案を読み込まなければ、ここを変更すべきなどとは言えませんから、玄人的といふか高度な議会活動に感じるのですが、柏野さんとしては普段、どういった分野の政策に関心を持ちながら活動しているのでしょうか。

柏野 一人会派だった時期があり、オールラウンドでやらなければならなかつたこともあります。今でもオールラウンド的になりがちです。その中でも持続可能な行政運営をしていくためには財政

がすごく重要だと感じていますし、この部分は他の議員もなかなか手を付けない領域なので、特に力をいれてやっています。

また、条例制定など政策法務的な領域にも関心があります。前回の議会で提出した修正案は公共施設の運営に関し、住民が参画する運営協議会の設置を条例で義務付けるものでした。他の会派の方にも事前に説明しましたが、現行では運用として行われていることから、条文に記載することの意味がご理解いただけませんでした。

山崎 柏野さんのような財政や条例など精査し、修正案を提案している活動は、地方議会で一

番重要な仕事の一つである「行政のチェック機能を果たす」ということになるのですが、実際に支

持者である住民の方々と接していて、そうした活動が理解されているな、と感じたりすることはあります。

山崎 今、議案審議や修正案とお話をいただきま

普段からチラシを配布している効果は大きい

柏野 中学生以上が読めるということを意識していますが、チラシ 자체は難しい言葉や数字がたくさん書かれているので、あまり面白くないかもしれません。全戸配布していることもあります。

「読んでいます」と声をかけていただきますね。意外と市職員の方が読んでいて、関係部署の職員から意見をいただくこともあります。

山崎 日々の活動に手応えがあるということですね。

柏野 そうです。前回の選挙から公職選挙法改正に伴い、候補者もビラ配布が可能となりました。

駅などでビラ配布をしながら街頭演説をしていると、普段駅でチラシをお渡ししている方々が、激励の声をかけてくれます。普段の活動を評価していただいているものだと思っています。

山崎 素晴らしいですね。先ほどお話をいたい

たように地域の人たちの困りごと相談から市議会での代表質問や一般質問につながっているのでしょうか。

相談内容は議会での質問に生かすも、住民からは生活密着の問題しか反応がない

住民からの困りごとや意見を行政にぶつけるも、少数会派が故に想いが届かない

漆原 質問のきっかけにはなっていますね。ただ、札幌市のように、首長と市議選挙が同時にあります。この時期は四年間かけて進めてきた計画

の終わりが見えるころです。したがって、解決や方針変更是なかなか困難となります。それでも次に向けての提起をしておかなければなりませんから、質問として聞くようにしています。

山崎 そうした漆原さんの質問を見ててくれている方からの反応などはいかがでしょうか。

漆原 柏野さんと同じように街頭でチラシを配布していますし、全戸配布することもあります。それ以外にも市議会のホームページで配信されている質問の様子を見てくれている方が数人いるようです。

また、代表質問は『広報さつばる』に質問内容と市側の回答が掲載されます。「こんな質問をしたんだね」など、リアクションをしてくれる人もいますが、正直なところ、応援してくださる方も除雪など生活に密着した困りごとが解決すればよく、議会の質問に興味を持っている方は少ないかもしれません。

山崎 お二方が対称的で興味深いですね。柏野さんは地域の住民との交流といつた草の根運動はどうされているのでしょうか。

柏野 私の場合は、町内会など地域の活動は強くはありませんし、繰り返しになりますが、そもそも札幌市と人口が全然違います。だからこそ、

定期的なチラシの全戸配布が可能とも言えます

が、絶対数が少ないことから、いたぐ連絡は限られますね。ただ、新型コロナウィルス感染拡大以降、チラシ配布後にSNSやLINEでいたぐご連絡は増えました。定期的に発行している効果は感じています。

山崎 このような声が寄せられているのでしょうか。

柏野 今年は圧倒的に除雪に関するお話が多くたですね。他には、恵庭市では現在市営住宅の建て替えを進めていて、移転に伴う入居を優先して

いることから、新規募集が非常に少なく、住むところに困っているが市営住宅に入れないという声が多いです。市営住宅建て替えに関する特別委員会もできたので、そちらで議論も可能となりましたが、定例会での一般質問でも改善を求めていました。

また、私の子どもが小学生ということもあります。保育園や学童保育など学校・教育関係の相談を多くいただきます。特にコロナ禍における学校の対応について、心配だから休校・休園にしてほしいという声と休校・休園を解除してほしいという両方の声をいただきます。丁寧に説明をしながら理解を求めるのですが、正解があるわけではありませんから、難しい問題と感じています。新型コロナウイルス関係では事業者から困っているという声もいただきますし、やはり困りごとに關する相談が多いですね。

山崎 そうした個別の困りことは、行政の担当

部署に届けるわけですよね。

柏野 当然、そうしているのですが、少数会派ということ、市長に対し厳しいスタンスで臨んでいることもあるって、なかなか私たちの意見が反映されづらいというもどかしさがあります。もちろん、すぐできる部分はやつていただけますが、大きなものになるとと思うように進まないことが多いですね。

山崎 市長を支持しているか・していないかで対応が違ってくる地方政治の現実を垣間見た気がします。ここからは選挙活動のことをお伺いできればと思います。漆原さんは一期目ですから選挙は一回、柏野さんは市議選だけではなく、道議選にもチャレンジしています。お二人はどういうな選挙活動をして当選されたのでしょうか。

3 節 どのような選挙活動を展開したのか

後援会入会者への挨拶と街頭演説の毎日

漆原 先ほども話をしましたが、立候補を決めてから選挙まで一年ありませんでしたし、選挙前年の一〇月末までは、室内用ポスターや名刺の作成以外、何もできませんでした。退職翌日の一一月一日から本格的な活動を始めたのですが、最初は労働組合関係に退職の挨拶回りをして、前任者は労働組合名簿に基づき毎日後援会活動をしました。白石区に住む古くからの友人や仲間にも立候補

補することを伝え、協力してもらいましたね。

また、三月まで駅前に立つて街頭演説しました。

白石区は地下鉄駅が六駅、JR駅が二駅ありますので、毎朝七時からいすれかの駅に立ち、挨拶をして、八時から三〇分、マイクを持つて皆さんに訴え、立憲号外を渡す活動をしました。夜は政党や組織の訪問、紹介いただいた方のところに行き、ご挨拶することでおぼ一曰が終わるといった状況でした。

山崎 つまり、不特定多数の市民や有権者に対し、認知度を上げる活動と労働組合を中心とした組織を固めていくという両方やっていったということですね。

漆原 はい。とは言え無名の新人だったので、ただただ地道な活動をするしかありませんでした。住民からすれば知らない人ですから、名前を書いてくれるのだろうかと心配しかなかつたです。選挙を手伝ってくれた方と関係先や地域を回り始めた時、「勝てる気がしない」と二人でため息をつき、「歩くしかないね」と話した記憶があります。

山崎 昔ながら運動量というか、やり方が必要ということですね。ちなみに、後援会に加入してあるのでしょうか。

他候補・政党支持でも後援会名簿に名前があれば訪問

漆原 細かく数えたことはありませんが、企業まで入れれば一〇〇近くあるかもしません。また、主要な組織の中にある支部や部会なども含めれば一〇〇は超えると思います。

山崎 白石区には立憲民主党の市議会議員で、

山口和佐さんもいらっしゃると思いますが、前任者からも含めて棲み分けのようなものはあるのでしょうか。

漆原 はつきりとした棲み分けはしていません。

白石区選出の道議会議員広田まゆみさんを中心とした区域分けのようなものはありますね。広田さんは年に数回、個人報告会を地域毎に実施していますが、私を呼ぶ地域、山口和佐さんを呼ぶ地域と分けてくれています。

山崎 労働組合の振り分けなどはどうしているのでしょうか。

漆原 それについては私もよくわかりません。ただ、棲み分け・振り分けた先に顔を出しては絶対ダメというわけではありませんし、以前から山口和佐さんは知っていましたので、特に意識することはなかつたですね。

山崎 なるほど。立憲民主党にはないことはわかりましたが、同じ白石選挙区の中での他の政党や会派の繩張りのようなものは有形・無形にあるのでしょうか。

漆原 それはあると思います。けれども、私は後援会名簿に名前があれば他の政党や候補者看板があるところも気にせず訪問しました。立憲民主

党に対する厳しい説教をした上で、後援会に継続加入してくれた人もいました。なので、行つてみなければわかりません。

山崎 付き合いやしがらみで別候補の看板は掲げていても、応援しているとは限らない。そうした方々の支持をどう掘り起こし、浮動票をどう掘り起こすか。選挙はそういうリアルな活動が必要になつてくるのですね。それ以外に選挙活動で苦労した点はありますか。

漆原 次のテーマにも関係してくるかもしませんが、女性ということで、お一人住まいの高齢男性宅で抱きつかれたりといったセクハラまがいのことがありました。なので、冬場でも少しドアを開けておく、一緒に回ってくれていた人に「五分以上戻つて来なければ一度携帯の着信を鳴らす」など、ルールを決めて訪問していました。あと、皆さんそうだと思いますが、体力的にはきつかったです。

山崎 自己分析として、どういった選挙活動・運動が勝因に繋がつたとお考えですか。

たくさんの人と会つて自分自身の想いを伝えられた

漆原 それはたくさん的人に直接会えたことだと思います。前任者のお手伝いをしていたときによく聞いたのは「後援会に入会したけど、候補者本人に会つたことがない」という声でした。そう

した経験から「候補者本人が有権者と会うのは絶対必要だ」と思っていました。関係者からは「握手の数だけ投票につながる」と言われていましたが、正直なところ、最初は自分から握手を求めることに恥ずかしさから抵抗があつたのも事実です。

けれども、たくさん的人に会い、直接自分のやりたいことを伝えられることができたので、これが勝因につながつたのかなと思っています。

山崎 そうした地道な努力や労力が当選に結びついた、ということなのですね。

漆原 街宣にしても、チラシを配るにしても候補者自らがやることで、「顔を見たことがある人」につながるのかもしれません。

山崎 柏野さんはこれまでどのような選挙活動を行つてきたのでしょうか。

常日頃から皆さんと会つて話をする

柏野 私は選挙を五回経験しています。最初は二〇〇七年で、当時の民主党の推薦をいただき、

恵庭市議会では三人目の民主系議員としての立候補でしたので、労働組合の推薦もありました。私は声かけたのは組合の組織内議員なのですが、後

継者がいたこともあって、直接的に後援会を引き継いだということはありませんでした。ただ、その方の個人的活動での紹介や労働組合関係から紹介のあつたところには挨拶回りをさせていただきました。

柏野 告示日以降の選挙活動 자체ですが、私は街宣車が嫌いなので、自転車でやっています。最近、特に意識しているのは、直接有権者と握手し、話をすることですね。自転車は車と違つてすぐ降りられますし、前回の選挙から選挙活動でもチラ

そうした活動をベースとしながら、皆さんと会つて話をすることが重要だと感じていましたし、地元出身でもありましたので、小中高の同級生を中心に行援会活動や対話をしていきました。恵庭市議選の場合、一〇〇〇票ほど獲得できれば当選できるので、漆原さんの札幌市議選とは当選に必要な票数が根本的に違います。私が実際に活動を始めたのは二〇〇七年の二月下旬くらいで、投票は四月ですから実質活動は一ヶ月ほどの期間に一日六〇人くらいの方にお会いして、最終的には一五〇〇人くらいの方にお会いしたでしようか。

その後、道議選に二回落選し、二回目の市議選に出るときは民主党を離れたこともあって、政党を理由として応援していただく方は若干減つたと感じています。とは言え、日常的に支援者を訪問はしていますし、繰り返しになりますが、チラシ配布も日常的にしていますので、選挙前に慌てて活動しなくてもよいということにつながっているのかもしれません。

SNSは選挙活動ツールの一つに過ぎない
基本は人とどれだけ会うか

柏野 告示日以降の選挙活動 자체ですが、私は街宣車が嫌いなので、自転車でやっています。最近、特に意識しているのは、直接有権者と握手し、話をすることですね。自転車は車と違つてすぐ降りられますし、前回の選挙から選挙活動でもチラ

シを配れるようになりましたので、チラシを配布しながら、「柏野は私です」と握手をして話す選挙スタイルです。

なお、市議選三回目の時には、同じ会派を組んでくれる新人が立候補することになりました。その方は、二〇一九年の三月三日に立候補を決めたのですが、投票日まで一ヶ月ほどしかありません。

その間にも定例会がありますので、一般質問や代表質問をし、合間でその新人の方と一〇〇〇人くらいの方にご挨拶させていただきました。結果、無事当選することができました。

山崎 一〇〇〇人ですか。二〇一三年の公職選挙法改正でSNSなどのネット選挙が解禁となりましたが、まだまだそうしたアノログな活動をすることが当選につながるのですね。

漆原 個人的にですが、地方議員に関してはSNS選挙の効果はあまりないとは感じています。やつぱり、候補者の顔を見たことがあるということが大事だと思います。

山崎 SNSの活動量が当選に結びつくのではないかということでしょうか。

漆原 私の場合はそう感じていますね。

柏野 私も漆原さんと同意見で、SNSだけでは効果はないと思います。確かに、SNSの場合、全然知らない方から連絡をいただけるメリットもあります。けれども、対面で接点のない人とSNSだけで投票に結びつけるのは難しいと感じています。私の場合はSNSプラス駅で直接会える。

だからこそ、チラシやSNSを見てご連絡をいただけるのかなと感じています。

山崎 そう言えば、恵庭から通学していたゼミ生が、「駅でこれをもらいました」と柏野さんのチラシを見せてくれたことがありますね。

柏野 私は、中学生や高校生にチラシを読んでもらうことを意識しています。最初の選挙だったと思うのですが、他の候補者が「子どもにチラシを渡さなくていいんだ」という話をしていて、それがすごくイヤだつた。

山崎 だからこそ、子どもたちにこそ読んで欲しいという想いが強いのですが、チラシに記載される内容は少々難いため、読んで理解してもらえるのは中学生以上にはなつてしまふ状況です。けれども、小学生から「チラシちょうどいい」と言われば渡します。そういう興味を持ったときに声が聞ける、声が届く存在が大切だと感じています。

山崎 そうなると、民主党の看板を背負つてやつていた時と無所属では戦い方も変わってきているということなのでしょうか。

柏野 結果的には変わつてきているのでしょうかが、基本的には対面して、お話ををしてというのは変わらないので、紹介いたぐルートがあるのか、ないのかだけなのかなと思います。

山崎 柏野さんは、二〇一九年の市議会議員選挙でもトップ当選し、同じ会派の新人も合わせてあります。けれども、対面で接点のない人とSNSだけで投票に結びつけるのは難しいと感じています。私の場合はSNSプラス駅で直接会える。

選になると全然違うということになるのでしょうか。

複数を選ぶ市議選と、ひとりを選ぶ道議選の違いは明らか

柏野 それについては私も分からぬ部分がたくさんあります。選挙の度に党派ごとの得票数の分析はしていますが、やはりそれぞれの政党が持っている基礎的な得票があると感じています。私が道議選に出た際の得票数を見ると、その基礎的な部分を上回つていましたので、一定の支持はいただけたと分析していますが、与党系の候補者との間には圧倒的な差があるのも事実です。要するに、自民党支持層の方々から相当な得票がないと、一人区の選挙に勝つというのは非常に難しいという実感です。

山崎 裏を返せば、自民党はあらん限りの力で組織選挙を行うので、既存の基礎票があるということですか。

柏野 そもそも一〇〇〇票取れる市議が一二人おり、その他に公明党の方も三人います。これだけで四〇〇〇票近くになります。つまり、与党系で二万票近い基礎票があるわけです。それに対して、野党系は民主党時代でも市議は二~三人しかおらず、無所属を含めても五〇〇〇~七〇〇〇票程度しかない。衆院選などの国政選挙の得票数を見ても、野党の得票は一万票くらいですから、当

選ラインの一万五千票を超えていくのは非常にハードルが高いと思います。

山崎 違う次元の戦い方などが求められるということでしょうか。

柏野 そうですね。ただ、チラシ自体は自民党支持者の方も読んでくれていて、評価してくださるのですが、道議のような一人を選ぶ選挙で票を投じるかというと中々厳しい部分があると思います。

山崎 それが現実なのですね。ここからは当選後、新人議員、女性議員として苦労、どういったところにあつたのかをそれぞれに伺つていきたいと思います。

4 当選後の苦労・苦悩とは

女性議員が増えることによる課題が見えてきた

漆原 女性議員という点で言えば、私の所属会派では、当選した新人六名中、三名が女性です。

会派全体では二〇人中六名が女性議員なので、女性議員の割合は高い方になります。札幌市議会全体で見ると、約四分の一強が女性議員ですが、会派人数が一番多い自民党でも今は数名という状況です。

しかしながら、女性議員が比較的多い会派になると、女性議員の取り組む課題が一人親に関する

問題や女性目線での子育て、女性問題などの領域に行きがちだと言うことに気づきました。私は敢えて建設や財政、経済観光などに目を向け質問するようになりますが、私も含め、議員自身も、周囲も（支援者など）女性議員＝女性特有の課題に重きをおいた活動をしなければ、というバイアスがかかつてしまっていると感じることもあるのは残念です。あとは、政治に深く関わつてこなかつた人でもこの世界に入つて来られるよう、議員に必要な知識を身に着ける事前の学習会などの機会があるといふ感じています。

また、議場の机や椅子といった設備がすべて男性サイズに作られており、女性では合わないことがあります。そうしたハード面の改善も必要だと思います。

山崎 ハード面、ソフト面の両方での改善が必要ということですね。あと、他の地方議会では、合理性がない前例や慣行の中で新人議員や女性議員の活動が不当に狭められてしまう、あるいは圧迫されることが散見されますが、札幌市議会においてはどうなのでしょうか。

漆原 以前を知らないという前提ですが、札幌市議会では山崎先生が挙げられていたようなことはあまり感じていません。やはり、市議のうち約四分の一強が女性ということは大きいように思います。ただ、女性が少數の会派では女性議員が男性議員に気を遣つていて、という印象は持つています。

山崎 やっぱり、数は力なりというか、女性が一定数いる影響は大きいですね。冒頭で、臨時会が頻繁に開催され、質問もたくさんしなければならないとお話いただきましたが、こうなると議員専業でやつていかなければならぬ仕事量ではないかと思います。家庭やその他活動との両立という点での苦労はなかつたのでしょうか。

女性議員に独身・離婚者が多いという現実をどう捉えるか

漆原 私自身は娘も独立し、単身生活者ですから家事などを気にする必要はありませんでした。

また、札幌市議会の女性議員の多くは単身者です。現在子育てをしながら議員をしている女性は、私の記憶では四名で、それも小学校高学年くらいだつたはずです。

残念ながら、女性議員にはこうした現実がありますので、家庭と両立しながら議員を続けることはまだまだ難しいのかなと思います。他方で、女性議員が参加しやすいよう土日に議会を開催する話もありますが、それをすることで女性議員増加や参画のしやすさにつながるのかと言われると疑問です。

山崎 私も土日や夜間議会の開催は抜本的な解決にはならないと考えています。そもそも日本の地方自治体はたくさんの仕事をしていますし、予算や決算、条例案などを全て議会に提案して通さ

なければなりません。それを真面目にチェックし

ようとすればするほど時間が足りなくなります。

そうした状況で夜間議会、あるいは兼業を解禁し

ても日本の地方自治に馴染まないのではないか。

むしろ専業で議員活動に専念できるような環境整

備を進めることが重要ではないか、と感じていま

す。

柏野さんにもお聞きしたいのですが、ずっと一
人会派でやつてこられて、今回、先ほど話いただ
いた新人の新岡ちかえさんが当選されたことで二
人会派となりました。また、良い意味で市長と緊
張関係にあるということで、『苦労は多いのでは
ないか』と思うのですが。

正攻法では超えられない不合理な慣行の壁

柏野 新人議員時代の話で言うと、私が二七歳
で当選して、次に年齢が若い方が四〇代後半くら
いででしたので、二〇歳ほど離れていました。親子
に近いような年齢差の中で、私が生意気だったこ
ともあつて、話を聞いてもらえないということも
ありました。そうしたところでの苦労はありまし
た。

先ほど、山崎先生が合理性のない慣行の話をさ
れていましたが、会議規則や条例上できないと
なつていてる場合でも、超法規的対応が取られる場
合があり、どうにもならないということがたまに
あります。実は今日も臨時会があつたのですが、

会議の申し合わせ事項に反するような取扱いが数
の力でまかり通つてしましました。正攻法での議

論では多数決でやられることも多いですね。

また、同じ会派の新岡さんにも苦労をかけてい

ます。彼女には議会運営委員会の委員を務めてい
ただいています。経験が物を言うではありません

が、どうしても議運委員長や副委員長といったか
なりのベテランと新人かつ女性である新岡さんが
対峙すると、年齢の高い男性がこれまでの慣例な
どで押し切ろうとする場面があるのも事実です。

山崎 議運などは会議規則だけではなく、いろ
いろな前例や慣例だと古参議員が「あの時はこ
うした」など言われた時に、何も知らない新人議
員は太刀打ち困難になってしまいますよね。

柏野 そうしたことが本当に多いので、最初は
私も議運を傍聴し、会議の中で前例などに関わる
ことがあれば、OJTでレクチャ―しながらやつ
てきました。

山崎 二人会派という数の力の問題と、これに
プラスするかたちで前例・慣例というところで有
形無形の制約があるということですね。そうなる
と、質問時間や調査活動などでの制約もあるので
はないのですか。

柏野 恵庭市議会は質問時間に関してはかなり
公平で、一人会派のときでも五〇分質問できまし
たし、二人になつてからは一三〇分を二人で割る
ので一時間以上質問できます。予算・決算の時に
は会派として代表質問のほか、一般質問もできま

すし、質問時間は困らないくらいありますね。

山崎 むしろ、他の会派の方々は持て余してし
まうくらいですね。

少数会派から委員長選出のメリット・デメ リット

柏野 確かに他の会派は質問時間を余していま
すね。ただ、苦しいのはそんな二人が監査委員と
委員長を担つているということです。委員には自

民公明の議員ばかりで立憲の議員もいないので、
陳情の審査をしても、六対〇になつてしまふこと
もあります。また、審議を深めようと現地調査の
提案をしても、委員の多数が反対して実現できな
いなど、少数が故の苦労は多いです。

もちろん、委員長という立場にメリットもあります。
ですが、我々の考えを委員会の中で表現する場が
ありません。しばしば委員長を交代して発言はす
るのでですが、それにも限界があることを感じてい
ます。

山崎 少数会派ならではの苦労があるのです
ね。ここからは若者と政治についてお伺いしてい
きたいと思います。今日、お越しいただいたお二
人は学生が政治と関わる機会を積極的に作る議員
インターフィップ活動をされていますが、なぜ学生
を受け入れるようになったのか。いきさつについ
てお話をいただけますか。

5 若者と政治 ①なぜ、インターーン

学生の受け入れをしているのか

若い人たちの話を聞いてみたいと思い、受け入れを始める

漆原 同じ会派の村上裕子市議がドットジエーピーの学生インターーンを引き受けており、私にも「やつてみない?」と声をかけていただいたのがきっかけで、二〇二一年の冬から始めました。

最初は若い人たちの話を聞きたいな、という軽い気持ちで受け入れましたが、来る学生の多くは、新型コロナウィルス感染拡大以降に大学入学した一年生や二年生で、対面授業がないので友達も作れず、サークル活動もできない。大学生らしい生活ができるいないと口々に話しているのを聞き、「学生同士の交流の場を作り、少しでも何か体験させてあげたい」と思い、受け入れ活動を継続しています。

山崎 一回の期間はどれくらいで、年間を通じて受け入れしているのでしょうか。

漆原 夏休みや春休みの長期休暇中に、期間は二ヶ月間となります。

山崎 受け入れた学生は、どのような活動をしているのでしょうか。

漆原 まず、学生自身がテーマを決めてどの議員に就くか希望を出します。私のところに来た学生に対しては、どのようなことを学びたいのかヒ

アリングした上で、まずは議会事務局にお願いして議会見学。また、道議にも協力を仰ぎ、新しくなった道議会も見学するなど、現場を見てもらうところからスタートしています。

そうした上で、学生が希望する公共施設見学や私自身が企画した学習会、学生インターーンを受け入れている議員と合同で学習会を開催して、そこに参加してもらったりしています。つい先日も、学生たちから「HUG」という避難所運営ゲームをやってみたいと希望があり、インターーンOB・OGも含め二〇名ほど集まり開催しました。

山崎 つまり、学生時代にしかできない経験の一つとして、議員インターーンの場を提供しているということですか。

インターーンに参加することが学生同士の交流の場に

漆原 そうです。どうやら親御さんからすすめられるというケースも多いようです。

山崎 親が子どもに議員インターーンを紹介するということでしょうか。

漆原 募集自体は学生が主体となつて、大学内やSNSを使って募集しているのですが、そうした情報を見た学生が親に相談し、「コロナ禍で様々な活動ができない中で、いろいろ体験できるなら行ってみれば」と言われ、申し込んだという学生が何人かいました。もちろん、学生のいまだから

できることを経験したい、コロナ禍で時間があるので社会経験を体験したいという学生もおりますが。

インターーンの学生だけではなく、小中高すべてのオファーに応える

柏野 私もドットジエーピーの学生インターーンを受け入れています。私が初当選した翌年から合計一四回受け入れています。OB会も開催していく、最初に来た学生は現在三五歳くらいになります。当時、私は二七歳で、学生が二一歳くらいでしたからそれほど年は離れていませんでした。

インターーンではあります、駅でチラシを配っているときに、私立高校に通う学生が「夏休みの宿題で仕事の話を聞いてレポートを書くようにと言われたので対応してほしい」とか、友人のお子さんが夏休みの宿題で職業について調べるのに対応してほしいという話もいただき、お話を伺う機会をいただいています。

また、大通高校ではキャリア教育のひとつとして「ソクラテスマーキング」という対話を取り入れた授業をやっており、落選したときの挫折について話して欲しいと言わされて、三年くらい関わっていました。小中高問わずオファーがあれば基本的に協力しています。

山崎 ドットジエーピーは絶えることなく世代

交代しながらずっと続いて、組織として維持されているのでしょうか。

柏野 運営は波があるようで、一時期学生が増えて一〇〇人規模くらいになっていたこともあるようです。その後活動休止していた時期があります。二〇一八年頃だつたと思いますが、道外の大学に行つていた道内出身のドットジエーピー経験者が復活させた経緯があります。学生ということで、長い期間コミットできるわけではありませんから、学業の傍ら運営を継続するという点ではかなり苦労があるようです。

山崎 O.B.によつて立て直しが図られ、活動が継続しているということがわかりよかつたです。学生を受け入れることは労力として大変だと思います。

伝えたいことがあるからこそ、受け入れ人数などの苦労は尽きない

漆原 やつぱり大変ですね。でもかわいいんですね。

柏野 私は何人受け入れるのがいいのかが悩みです。かつて、三人受け入れてみたときは、全員に同じレベルで伝えたいことを提供できなかつた経験があるので、最近は二名とします。学生同士でお互い学んだり助け合えるだろうと思つてますが、今冬はJRが雪で運休となつて、札幌の学生が来れなかつたことが多々あります。

した。こちらとしては伝えたいことがたくさんある中で、来ているAさんには伝わつて、Bさんに伝わつていないという温度差をどうしたらいのかという悩みもあります。

さらに、私が濃厚接觸者となつてしまい、受け入れ学生と接することもできなかつた時、オンラインも使つてみたのですが、やはりそれでは伝わらないものがあつたと感じています。それも含めて考えると、どのくらいの人数で受け入れればいいのかは常に悩んでいます。

漆原 それは私も同じです。最初、四人受け入れてパンクしました。まず、四人に連絡することが難しい。LINEのグループ機能を使つても、既読が付くまで次に進めない、あるいは来るのか来ないのか出欠も分からぬということもあります。

山崎 社会性がある学生ばかりではありませんからね。そうした中で、忙しいからという理由で受け入れを止めずに活動されていて、大学教員を代表して感謝申し上げます。ちなみにどちらの大學生、学校の学生さんを受け入れられていましたのでしょうか。

残念ながら「政治に関心・興味なし」

漆原 私はインターンの学生を受け入れして三

回目なので、柏野さんより経験が少ないので、男女含めて「政治に興味・関心なし」というのが私の中での結論です。議員になりたいという学生は一人もいませんでした。

山崎 今話を聞いていてびっくりしたのは、「政治に対して興味・関心が無い」のに議員インター

で、北海道大学や北星学園大学などもいますが、北海学園大学はインターン参加が大学の単位になりますので、中にはモチベーションが必ずしも高くなっているのかなと感じています。やはり、純粹に学びたい学生の方が積極性は高いです。

山崎 そうなると、単位のためにドットジエーピーに来ている学生もいるかもしれないということですか。とは言え、そうした活動をずっと継続されているのはありがたい限りです。

② 学生の政治意識——その実態とは

漆原 北海学園大学が一番多かつたでしょうか。この度、北海道大学の学生が来ました。

柏野 私のところも多くは北海学園大学の学生

ンを希望する学生もいるのですね。

漆原 政治家ってどんな人なのだろう、政治つてどのような感じなのだろうという興味を持つて来ている学生が集まっているとは思います。ただ、日ごろから政治に関心を持つて生活しているわけではないですし、時事ニュースは特段見ていないので、政治家の名前はメディアに出ている人しか知らないという学生が多いです。この理由は受け入れているのが大学一年生や二年生ということに関係しているかもしれません。

なので、私は最初に「札幌市議や道議、国会議員個人のホームページを見てほしい。そして、いろいろな政党があるので政党のホームページも見てくださいね」と伝えています。また、できる限りでいいので、時事ニュースにも関心を持つて、議会のホームページで議事録を見てどんな質疑がされているのか確認してほしいとも伝えていました。議会を傍聴したり、現場を見聞きして質問を繰り返していくことで、インターネット終了のころには「興味が出てきた」という学生は多いですね。最後に提出するレポートには政治がどのように動いているか分かった』というコメントが出てきます。

山崎

それが実態なのですね。

漆原 私も最初は、ある程度は政治に興味を持つている人が来るものだ、と思い込んでいましたが、実際はお話ししたような状況です。あと、親世代が新聞を取つておらず、得る情報はネットやSNSということもこうした理由の一つではない

でしょうか。

山崎 政治に触れるのがせいぜいテレビくらいしかない、ということですか。

コロナ禍以降、インターネットによる学生交流の場へ、 政治意識の低い学生は増えた

柏野 今まででは、公務員志望の学生が議員イン

ターンに来るという印象を持つていました。ただ、先ほど漆原さんも話していましたが、コロナ禍になつて以降は大学内で人と接することが減つたため、それに代わるものとして議員インターネットを選ぶ学生が増えています。そのため、議員インターネットに来ているけれども、政治や行政に関心が薄い学生の割合が高まつていると私も感じています。

その一方で、駅でチラシを配つていて感じる若者の意識は、それほど変化はないのかなと思つてます。感覚として高校生の方が受け取つてくれているな、という印象がありますね。大学生になると、様々なことで忙しいのか、あまり受け取つてもらえません。

山崎 あと、来ている学生と話をしていても、特定のトピックについて自分の考えがはつきりしている人は少なくなつてきているように思います。だからこそ、「自分の考え方を持つてほしい」という気持

ちから敢えてそのような話をしています。また、自分たち少数派の話ばかりではなく、他の会派の

議員などからも話を聞く機会を設けるなどして、多様な価値観を分かつてもらえればいいなと考えながら活動しています。

山崎 ちなみに、議員インターネットに来る学生はどういった政策テーマ、分野に興味を持つていているのでしょうか。

学生が関心を持つ政策テーマとは

漆原 議員インターネットに来た学生は最後に発表

をするのですが、それを見聞きしていると二バターンあつて、例えば、自分が将来結婚をして、子育てをしていくために必要なまちづくりに政策に興味を持つ学生と、今の札幌市は理想のまちではないので、ＩＣＴ等を導入して産業や観光などを発展させたいという学生に分けられます。あと、防災に興味を持つ学生も一定数いますね。

柏野 大学生が持つている経験としては、それまで小中高で受け取つてきた教育があるので、教育に関心がある学生が多いように感じています。ただ、今漆原さんも言つていたように、テーマ発表がありますので、それに向けてテーマを考えたり、練り上げたりはするのですが、なかなかその政策が

国の政策なのか、地方自治体の政策なのかまで考えが及ばなかつたりしますので、掘り下げるという点ではちょっと難しいと感じることもあります。

山崎 そうなのですね。昨年度の後期、私が担当していた講義でコメント票を書いてもらつてい

たのですが、衆院選直後の講義で「あなたは選挙に行きましたか」と聞いてみました。コメント票を返してくれた学生という限定条件とはなりますが、約六割の学生が投票したという回答でした。他方で、投票に行かなかつた学生の理由で多かつたのは、「不在者投票制度が使いにくい」でした。北大も道出身者が増えてこうした回答になるようです。意外にも政治に関心がないといった否定的・ネガティブな理由で投票に行かなかつた学生は少なかつたですね。

新学期になり、女性と若者の政治参加をテーマとしたゼミを開講しましたが、ここでも昨年の衆院選に投票したかを聞いてみました。学生一四名中、投票したが七人、投票していないが七人で投票率五〇%でした。先ほどの講義でも投票した学生は約六割ですから、学生がそんなに政治離れしているわけではないと感じています。

「どのような政策分野に興味関心があるのか」、「政策をどのように判断して投票したか」も聞いてみました。一番多かつたのはやはりコロナ関連の政策でしたが、意外にも選択的夫婦別姓制度やLGBTQ、ダイバーシティへの関心が高く、興味深い結果が出ていました。

中には、自分自身で政党間比較や政党主張を分析した学生もいましたが、自分が関心のある政策などを選択すると、投票先に最適な政党や政治家が紹介されるマッチングアプリがあるので、それを使いましたという学生が結構いて驚きましたね。

ただ、野党やマスコミが政府を批判することに対して、生理的嫌悪感を持つ学生が一定数いましたし、「自分はまだ政治に対する意見や見識を確立していないので、そうした自分が投票していくのか自信がない」というコメントもありました。

ただ、野党やマスコミが政府を批判することに対して、生理的嫌悪感を持つ学生が一定数いましたし、「自分はまだ政治に対する意見や見識を確立していないので、そうした自分が投票していくのか自信がない」というコメントもありました。

したがって女性議員だからこそ期待される役割もあると考えていたのですが、自身や周囲のそうした認識が逆に女性議員を縛ってしまうということでしょうか。

制約され続けている若者たち、これを打破・変化させるような成功体験が必要

柏野

今の大学生は、コロナ禍で修学旅行や卒業式などのイベントが制約されたので、それを受け入れざるを得ない状況なのだと思います。もつとも、小学校や中学校時代も自分たちの力で何かを変える、何かを決めるという経験を持たない中で、最後の最後にもそうなつてしまふと、自発性はますます生まれないだろうと感じています。何

か成功体験を持ってもらわないと、若いうちに行動・活動しようとか、政治の分野に興味を持とうと思わなくなるのではないかでしょうか。

山崎 全くその通りですね。今日はこの研究会のメンバーでもある馬場香織先生が陪席していまので、質問があればぜひどうぞ。

馬場

先ほど漆原さんから、女性議員の場合、

取り組む政策課題が子育てや一人親の問題などのイシューに偏りがちだというご指摘がありました。女性議員に関する近年の研究では、女性議員が増えると議会内で子育てやジェンダー関連の議論が活発化するといった効果が注目されており、

議員も多いので、女性議員だからとそうした質問をしなくても議論ができると感じるからかもしれません。けれども、ジェンダー・多様性を考えれば、すべての議会で男女関係なく子育てや一人親に関する議論がされなければならないと思ってい

ます。女性議員は期待される役割がある一方で困っている女性や支援団体などから話を聞いて質問を作成することも多いので、同じような質問になつてしまふ現実がある。だからこそやはり、男性側も女性と一緒に子育ての議論をできるといいのかなと思っています。

馬場 札幌市議会は男女関係なく、子育てなどのテーマを扱える議会であるということでどうか。

漆原

それもありますが、数年前には痛ましい児童虐待事件もありましたし、政令指定都市の中でも人口減少と少子高齢化の進行が早いこともあって、市側も子ども子育てや若年女性政策に力を入れています。なので、男性議員の関心も高い

一方的な制度改正だけではなく、住民も文
ですし敢えて女性議員がそうした政策に特化しな
くともいいのではと私は感じているという意味

えた議論が必要

きるようになれば感じています。

女性議員が増えるメリットーそれは議会が 市民に近づくということ



標準会議規則が改正されて以降、登別市
議会で産休を取っている女性議員がいると聞きました。この対応として、いろいろと制度変更した

柏野 恵庭市議会でも、若い男性議員が子育て
や保育の質問をしていますが、子育てに関連する
課題を感じた女性が年配の男性議員に相談を持ち
かけるかと言われると、ほとんどないのだろうと
思います。女性議員が増えることのメリットは、
馬場先生がおっしゃっていた効果もありますが、
むしろ議会がより市民に近づいていくことではな
いか、と私は考えています。

漆原 産休・育休については、議会が認めてく
れるかよりも有権者である住民が認めてくれるか
に尽きるのではないかでしょう。なので、この問
題は当事者である議員だけではなく、住民も巻き
込んでもっと議論すべきだと感じています。

馬場 なるほど。女性議員が増えることで生じ
る変化について、議会の環境整備に関連して教え
てください。昨年、地方議会の標準会議規則が改
正され、欠席事由に「産前6週、産後8週」と産
休期間を明記したほか、育児や介護も加えまし
た。改正の動きが全国的に広がっていることは評
価できる一方、取得のしやすさや、使い勝手の良
さといった課題もあるのではないかと考えていま
すが、お二方が見ていて最近変わってきた点はあ
りますか。

柏野 議会ではありませんが、恵庭市は長らく
男女平等参画政策の一環として審議会の女性委員
を増やそうという方針は立てていて、今年度から
は積極的な計画が進められています。具体的には、附属機関の審議会委員に若い女性が入ったこ
とで、担当課によつては託児の手配をしてみる、
時間の設定を配慮したりするなど、変化が生まれ
てきている状況です。議会ではまだまだそうした
動きにはなつていませんが、行政の附属機関を見
ていても女性が増えることによる変化を期待して
いますので、議会としても進めていかなければな

らないと思っています。

馬場

審議会で女性を増やそうという動きが強まり、それに伴って環境整備も進められているということですね。

柏野

審議会の委員の多くは団体推薦で占められており、団体で役職についている方は男性が多くつたことから、女性団体からの委員を除くと、これまで公募の委員でしか女性委員は入らなかつたのですが、団体推薦の枠でも「女性を選出していただくように」強く求めるようになり、目標数値を達成していない所管部署に対しては、理事者から強く指導が入る仕組みとなりました。今年度からはかなり改善するのかなと思っています。これは私たちの会派が繰り返し求めてきたことです。

世代間ギャップは存在するーそれをどう解消するか

山崎 ある地方議員に対してもうこの研究へ協力してほしいとお願いした際、「最後は議員同士の競争になるので女性議員にアドバンテージを与えるような政策に対してもう女性議員の古い考え方といふのも出てくる」旨の話を聞きました。

柏野 それは、アドバンテージを与えるというより、アファーマティブアクション（編集部注・

社会的あるいは構造的な差別によって不利益を被つてゐる者に対し、一定の範囲で特別の機会を

提供することにより、実質的な機会均等を実現することを目的とする措置。「積極的格差是正措置」とも言われる）の話ではないでしょうか。

馬場

そうした考えを持っていなければ、是正することが優遇だ、と捉えている人もいますからね。柏野さんのような視点で見られる男性議員が増えなければいいのでしょうか。

山崎

そうした考え方を持った人もありますからね。柏野さんのような視点で見られる男性議員が増えていけばいいのでしょうか。現実は違います。

馬場

そうした考えに至るか至らないかは、やはり世代による違いなのでしょうか。

柏野 世代間の違いはあると思います。私は中学時代、技術も家庭科も受けた世代なので、その抵抗は下がってきていましたが、少ないので学生と接していても、もつと下がつてきていると感じています。ダイバーシティや働き方改革などが当たり前になつてるので、世代間のギャップはあるのかなと思います。

山崎 それはあると思いますね。それについては、これから地方議員に対するアンケート調査を行なう予定なので、実態を調査してみたいと思います。

漆原 全てではありませんが、ベテラン議員の中には「女性が家事をやる」といった固定的な性別分業役割が染みついていて、「ゴミを出しているところを地域の人々に見られて困る」と言う男性議員もいたそうで、そういう時点では世代ギャップはあると思いますね。

柏野 若い男性議員は「今日は子どものお迎え

があるので」と言うことに抵抗がありません。

馬場

もう一点質問です。先ほど議員になるための学習機会の話がありました。そのような機会は会派関係なく非常に限られているのでしょうか。

馬場

立憲民主党で言えば、道連内で新しい政治塾を企画したと聞いていますし、民主党時代にも政治塾を何度も開催していましたが、少ないです。

でも基本については勉強しておいて損はない。なので、政党問わらず議員になる前に勉強する機会はあつた方が良いと考えています。しかし私も含め、そうした学習機会も予備知識もないまま議員になつた人も少なくない。偏見かもしれないがとくに女性は政治や経済、財政に苦手意識を持っている人は多いように感じられます。

柏野 そこは本来政党とか会派に任せることではなくて、自治体議会としてやるべきだと思います。ただ、そうした勉強会をやる議会は少ないので、今日の鼎談主催者でもある北海道地方自治研究所が開催する講座などに担つていただいているという状況です。

また、勉強会が開催されることを何らかのかたちで知つていて、接点がある人はいいのです

が、そうではない場合、参加すること 자체ができるませんから、条例の読み方が分からず、決算書の読み方が分からぬ議員が生まれてしまう原因になります。こうした議員を生み出さないためにも、私は「議会として勉強会や学習会をやっていくべきだ」と提案しているのですが、ほかの議員からは「それは会派がやればいい」と言う回答で終わってしまいます。

馬場 大変貴重なお話をありがとうございました。

山崎 予定の時間が近づいてきましたので、最後にこれから地方政治を目指す若者や女性にメッセージをいただけませんでしょうか。

おわりにー私たちからのメッセージ

漆原 新人議員の私が言うのもおこがましいのですが、若者の視点は本当に広くて気づきも多く驚きます。まちごと変えようという発想は私たちではなかなか想像がつきません。でもそれが無理かと言われると、そうではない。実現できれば素晴らしい自治体や国になっていくと思います。若者の視点でまちづくりしていくことはとても重要なことで、積極的に政治参加してもらいたいですね。

女性に対しては、発信力や発言力、じっくり聞く力、自分の想いや考えを主張できることに力を注いで欲しいです。これは若者にも言えるのです。

が、こうした力をしっかりと身につけることで対話もできるようになりますし、社会人としても議員としても通用する人になると思っています。

柏野 私たちも地方議員有志で議員養成講座をやっているのですが、予想していたよりも若い世代や女性の参加は多くありませんでした。したがって、議員を目指す人が多くないということが世の中の実態なのでしょう。ただ、いろいろなことができるのが地方自治です。国の政治といった大きなものを一気に変えるというよりは、地方の身近なところで小さな変化を起こして行ければ、もつともっと北海道や国全体が居心地の良いものになっていくと思っています。若い人・女性に言いたいのは、それをぜひ一緒にやりましょう、ということですね。

山崎 ありがとうございます。本当に貴重なメッセージをいただきました。時間となりましたので、これで鼎談を終了させていただきます。

本稿は、二〇二二年四月一三日に開催した地方自治のダイバーシティ研究会「鼎談」をまとめたものです。

文責・編集部